

2026年1月10日

実践研究報告会（オンライン）

「ともに世界に意味を創り出す教育をデザインする」

—ひらき、紡がれる実践の可能性を「痕跡」から探る—

今を生きる子どもたちと、子どもを取り巻くすべての人々とこの世界で
ともにあることを目指し実践を重ねてきました。

今ここに意味を創り出す教育の具体的な実践から、
何がひらかれ紡がれ、その先にどのような実践の可能性が
見出されてきたのか。

「痕跡」から浮かび上がる3つの具体的な実践の報告をさせていただき、
乳幼児教育の未来について参加者の方々と探究していく機会としました。

本実践研究報告会について

奈良女子大学附属幼稚園に身を置く一人ひとりが「ともに」という
地平に立とうとすることで、日々どのような実践が営まれてきたのか。
その具体像と、それぞれにとってどのような意味が生成されたのかを
言語化し、報告させていただきました。

オンラインで実施し、参加いただいた方々の実践の「痕跡」と
重なり合うことで、何がひらかれ紡がれていくのか
この場で新しい意味をさらに編み上げていくために、
実践報告を聞いていただき、小グループでの対話の機会を設けました。

自分自身の中に違和感や問いが生まれる、
答えの出ないモヤモヤとしたネガティブケイパビリティこそを
大切に味わえる時間を過ごすことを目指し実施しました。
後日オンデマンドにて配信をし、多くの方に視聴いただきました。

（申込者数：27名）

（オンデマンド視聴回数：のべ255回 3/31現在）

研究概要

「ともにある」ということの探究

ともに世界に意味を創り出す教育をデザインする
—ひらき、紡がれる実践の可能性を「痕跡」から探る—



▶ 様々な実践が生成されてきている

方法として「ひらく」ことで 実践として実質化していく

保護者が一つのテーマについて
語り合う「おしゃべりひろば」

園内研修へのお誘い

保護者や学生、異校種の教員の
公開保育研修会への参加

保護者が仲間として保育に
加わる「保育参加」

地域を超えた他園の先生方との
実践を通じた語り合い

20260110 研究報告 園内発表

20260110 研究報告 園内発表

20260110 研究報告 園内発表

20260110 研究報告 園内発表

拡張されていく「ひらく」ことの意味

方法としての「ひらく」が実践者の学びを生んできた

- ▶ 社会や地域へ実践や幼稚園という場を
公開することそのものであり、方法として捉えていたことへの気づき
- ▶ 互いに作用し合っていることから幼稚園が起点ではないこと
への気づき

⇨ 実践から問いが立ち上がる

何が「ひらかれて」いるのか？

20260110 研究報告 園内発表

「痕跡」を手がかりにする

痕跡：解釈可能性を残した複数の記録
複数の主観的な観察者が違った手段で記録をすることで、
集団的に解釈がなされ物語ができる
子どもは自分たちのしたことへの再訪、考察、解釈をすることで知識の
共同構築が導かれる
親は子どもの知らなかった側面や互いの考えを交流する機会となる

【中】メタディスカッション(2026) 奈良女子大学附属幼稚園実践研究報告会 0205.9.9

⇨ 実践の主眼者として感じ考えたことを記した記録

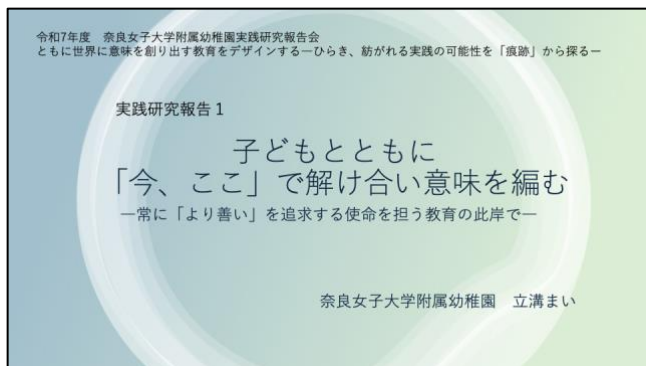
今ここで何が生まれたかを残したもの
他者の文脈や価値観が重なることで意味を見出しているものの
その積み重ねりから立ち現れた実践そのもの

20260110 研究報告 園内発表

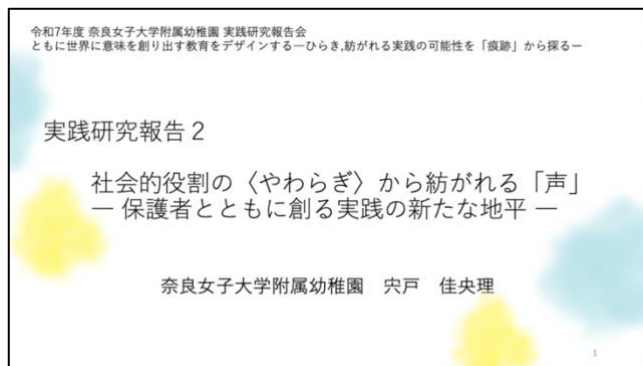
17

実践研究報告

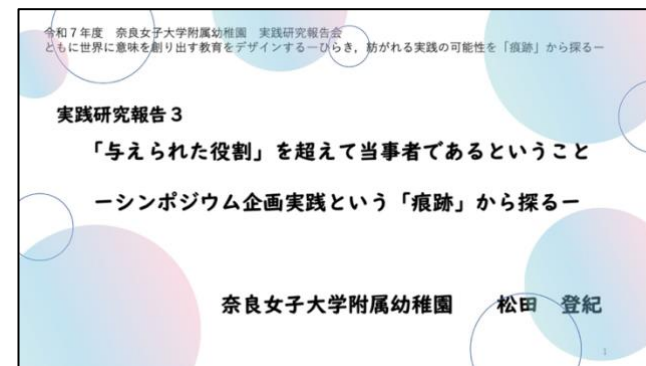
1- 保育実践における子どもの語りや保育記録を「痕跡」とした報告



2- 保護者が立ち上げた教養講座の実践を「痕跡」とした報告



3- 研究会におけるシンポジウム企画実践を「痕跡」とした報告



参加者の方のふりかえり（抜粋）

子どもとのかかわり、子どもの声から「今、ここで」「ひらかれる」と子どもの心の動きを感じた保育を実践されていること、声を聞くという大人の遊びにも感銘を受けました。同じ保育者として日々の日常の中で、子どもの内面を考えることを忘れていないか自身を振り返るきっかけにもなりました。今後へと紡いでいきたいと考えます。

改めて、異なる視点をもつ他者と保育をつくっていく大切さを感じました。「ともにある」という言葉を考える上で、これまで異なる視点で捉えるという、他の先生方の見方というイメージがありましたが、保護者や他校種の先生方、実習生、そして子どもたちとたくさんの人との関係を大切にしないでほしいと思いました。

「ひらく」が当たり前前の園になるように、そして私たちもひらく対象を増やしていきたいと感じています。(中略) 幼児教育は、これからの教育を担う若者達に知ってほしい考え方と思っています。小学校の先生達に、地域の縁に、そして大学生に、と、幼稚園とともに学べる企画を行なっていきたいと今園で話し合っているところです。

「痕跡」という言葉を聞いて、最初は捉えが難しいと感じましたが、事例をお聞きし、たとえば子ども達の遊びにおいて、成長において、職員間の話し合いにおいて、保護者との対話においてと様々な所に痕跡があり、それが全て繋がっていると考えると、スッと入ってきました。改めて保育は様々なことが絡み合い、奥が深く面白いと感じる研修会でした。

幼稚園の先生方もたくさん悩みながら、保育をしてくださっていると感じました。(中略) 先生方が悩みながら、毎日子どもたちと向き合ってくださっていることに、はっと！気がつきました。とともに、私自身が毎日悩みながら育児をすることはそんなに悪いことじゃないかもしれない、ふと思いました。

研修を振り返って

地域、立場を超えた様々な方にご参加いただきそれぞれの「痕跡」に触れる機会となりました。自身の声をあげることで、互いをケアし、他者の声を重なることで、自分が何を大切にしたいと思っているのかを捉え直す機会となっていたと思います。再解釈をしていくことによって、また網の目のように実践が広がり、結ばれ、紡がれていくことをこれからも楽しんでいくことができると思います。